

NIHONJINKAI a.s.b.l.

発行：広報委員会

責任者：川口浩司

Avenue des Meuniers 133

1160 Brussels, Belgium

TEL: +32 (0)2-647 38 39

e-mail : jimukyoku@nihonjinkai.be

URL : www.nihonjinkai.be

Bimonthly Bulletin of the Japanese Association

No. 427 May 2026

ONLINE

日本人会会報



目次

- 2 素晴らしきベルギー生活
鈴木 智朗
- 5 クラシック音楽をもっと楽しもう会
ベルギー日本人会 文化委員会音楽部
- 7 冬季五輪カーリング パブリックビューイング
ベルギー日本人会 総務委員会
- 8 160周年共催イベントマグリット講演会
ベルギー日本人会
- 9 日本人学校セミナー「ヨガ体験教室」
ベルギー日本人会
- 10 交通安全セミナー
ベルギー日本人会 総務委員会
- 11 動物園 (Pairi Daiza) バスツアー
ベルギー日本人会 総務委員会
- 12 西欧絵画の楽しみ方 113
「カラスのいる麦畑」 ゴッホ
森 耕治
- 18 ベルギーのありふれた日常 22
友達の輪 日本ベルギー 160年目の友好②
藤野 ユミリ
- 21 告知板
- 23 今、学校では **会員限定**
ブラッセル日本人学校
- 25 会員異動 **会員限定**
- 28 2025年度ベルギー日本人会第4回理事会議事録
(2026年3月10日開催) **会員限定**
- 33 編集後記

5月号

素晴らしきベルギー生活

Nippon Shokubai Europe N.V.
鈴木 智朗

ベルギー日本人会の皆様、こんにちは。このたび 5 月号の巻頭言を担当させて頂く Nippon Shokubai Europe N.V. (以下NSE) の鈴木と申します。

2023 年 2 月より当地に着任し、あっという間に 3 年が経過しました。今回は弊社のご紹介と、私がこれまでに感じたベルギーでの生活や欧州の印象について記してみます。

日本触媒は 1941 年創業の中堅化学メーカーです。戦後、欧米からの技術導入で日本の石油化学工業は発展していきますが、当社は独自技術にこだわり酸化エチレンやアクリル酸の製造プロセスを確立し今日に至っております。ご興味のある方は、『炎の経営者』（高杉良著）を読んでいただくと町工場から始まった当社の歴史だけではなく、創業者の熱い思いや激動の時代を感じることができると思います。

NSE はアクリル酸とその誘導品である高吸水性樹脂 (Super Absorbent Polymer: 以下 SAP) を製造・販売する日本触媒のベルギー子会社でアントワープに所在し、昨年操業から 25 周年を迎えました。SAP は主に紙おむつの吸水材料として使用され、現在においても世界的に需要が伸長しております。新興諸国では子供用おむつの伸長率が極めて高い一方、成熟国では近年軽失禁パッドや大人用おむつの需要が子供用おむつの停滞をカバーしているためです (私もそろそろ「ちょい漏れ」対策のため SAP のお世話になって会社に貢献できるかも…)。日本触媒はグループで SAP の世界販売トップシェアを維持しており、NSE は重要拠点の一つとなっております。一口に「おしっこを吸う粒」と言っても吸水倍率、吸水速度、通液性、吸水保持力などなど、またこれらのバランスといった顧客ニーズに合わせた設計が必要かつ、生活必需品の主材となっているため安全生産・安定供給が使命となっております。また、近年は環境・社会・経済における持続可能性が重視されていますので、当社製品も包装物なども含めてリサイクルやより環境負荷の低い原材料の使用といった新しい課題に直面しています。欧州はサステナビリティにおいては世界のトップランナーですので、NSE は日本触媒グループにおけるサステナビリティの推進役にもなっており、チャレンジの日々を

過ごしています。

さて、ベルギーにおける会社生活ですが、私の印象ではベルギー人は上述のような変化に対するチャレンジが好きで、物事も非常にポジティブに考える人が多いと感じております。一方、日本人は慎重、悪く言えば保守的過ぎる (化学メーカーは常に危険と隣り合わせなので保守的である必要もあります) ので、目指すゴールは同じでも考え方、やり方の違いがあり、ローカルスタッフと日本人スタッフとの相互理解の促進、One-Team の醸成が私の重要な役割の一つとなっております。また、ベルギー人は時間に割ときっちりしています (これは日本人としてはやりやすい) し、自分の意見をはっきり述べますが、人の話も聴くことができる人が多いので、建設的な議論ができるかな、と感じております。お金の使い方なども計画的のような印象を受けております。私は米国の南部、テネシー州に赴任していた経験があるのですが、アメリカ人はよりフランクだけど、主張が強く、人の話はあまり聴かないので、いろいろな局面で根気が必要でした。また、有り金はすぐ使ってしまう天晴れな人が多かったです。(だから? 給料も Bi-weekly、Payroll 毎に源泉徴収税の%を調整しに来る人もいました。。。)

欧州は歴史が長く、その中で確立された伝統、文化、生活様式があり、全てがスタイリッシュ (建物、インテリアデザイン、車、ファッション) であると感じており、米国とは違った良さを感じて過しております。(米国は何でもデカくてダイナミック、また、よりカジュアルなライフスタイルだった気がします。おっさんはだいたい帽子を被っている。)

米国に赴任していたのは今から 15 年前くらいの話です。家族で赴任した当時二人の娘は 8 歳と 5 歳と幼く、親の都合で米国に連れていかれ、ローカルの小学校に通うことになり、初めは親子共々大変でしたが、お陰で娘二人は英語が得意となり、人生も大きく変わりました。国語、算数の維持のため週末は隣のジョージア州にある日本人補習校に車で片道 2 時間掛けて通いました。現在、誠に僭越ながらブラッセル日本人学校の理事会で補習校委員をさせていただいており、学校行事や入学式、卒業式に参

加させていただきますが、自分の娘が小さかった頃、米国での補習校のことを思い出したりしつつ、出来る限り貢献できるように努めています。現在は単身赴任で、気楽な面と少し寂しい面の交錯を日々感じながら、ベルギー生活を楽しんでおります。本稿を執筆しているのは3月初旬、曇天と雨、そして寒風（会社はアントワープ港に近く、風が強い！）に耐えつつも、少しずつ春の訪れを感じています。ベルギーの冬は憂鬱ですが、夏は素晴らしく快適で大好きですので、発行の頃には「次はどこに行こうか」とワクワクしている自分を想像しております。みなさんも異国で過ごす大変さはおありと思いますが、数年単位で欧州で生活するということは大変貴重な経験ですので、素晴らしきベルギー生活を思う存分楽しんでいただきたいと思いますと思っております。



Nippon Shokubai Europe N.V. - President
鈴木 智朗

在庫管理・
製造

財務

マーケティング

人事業務

販売



INFINITYのクラウド

ERPシステム

ひとつですべて実現

無料相談、
実施中！



🌐 www.infi2.com
✉ sales@infi2.com
☎ 02 644 44 77

KENGO KUMA

Architecture in dialogue

18.04–13.09.2026
Fondation Folon La Hulpe

Photo © Takumi Ota



FONDATION
FOLON

KENGO
KUM & ASSOCIATES

EMBASSY OF JAPAN
IN BELGIUM



日本人会
NIHONJINKAI

クラシック音楽をもっと楽しもう会

日本人会文化委員会 音楽部
部長 日比 佑輔



2月13日の金曜日に、「クラシック音楽をもっと楽しもう会 2026」をブラッセル日本人学校にて開催いたしました。

このイベントは、ベルギー日本人会員の皆様に、ヨーロッパ文化であるクラシック音楽を気軽に楽しんで頂こうという趣旨で、この時期の恒例イベントとして過去20年以上にわたり開催しております。

音楽会には、ブラッセル・モネ劇場を拠点にご活躍中のBrussels Chamber Orchestra (BCO)をお招きし、1時間にわたりご演奏頂きました。

当日のプログラムは弦楽4重奏でヨーロッパ各地からのダンス音楽をご演奏頂き、会場にいる約100名の皆様が真剣に、楽しみながら音楽を聴いておられました。一度は誰もが聞いたことがあるMinuettoのような音楽から、アルメニア、ジョージアの民族音楽まで、幅広いダンス音楽をご演奏頂きました。

「生の演奏を通じて知っている曲のこれまでと違う一面を知れた。」「知らない曲もあったが、これをきっかけに民族音楽も聴いてみようと思う」と嬉しい声も頂くことが出来ました。

会員の皆様におかれましては、Brussels Chamber Orchestraの皆様が日ごろ活躍されているモネ劇場に足を運び、より深くクラシック音楽の世界を楽しんでみてはいかがでしょうか。

音楽部としましては、ヨーロッパの文化に根差した音楽を楽しんで頂くことにより、会員の皆様の折角のヨーロッパ滞在を実りあるものにしていきたいと考えているため、次年度以降も工夫を重ねながら当音楽会を続けていきたいと考えております。

最後に、当音楽会へ参加頂きました会員とそのご家族の皆様、並びに会場のご提供を頂きましたブラッセル日本人学校の皆様に感謝を申し上げたいと存じます。

当部の活動をより良いものにしていきたいと考えておりますので、引き続きご支援の程、宜しくお願い致します。



<開催概要>

日時：2026 年 2 月 13 日（金）18:30 ～ 19:30
 会場：ブラッセル日本人学校
 主催：ベルギー日本人会文化委員会音楽部
 （幹事：アイシンヨーロッパ）

<演奏者>

ヴァイオリン
 赤間 美沙子
 東 珠子
 ヴィオラ
 Mihai Cocea
 チェロ
 Mario Villuendas

<プログラム（作曲家）>

Minuetto
 (Boccherini)
 from 6 Almenian Miniatures
 The red shawl, Eshmiadzin Dance,
 Festive song, Little partridge
 (Komitas)
 La Oración del torero op34
 (Turina)
 Serenade
 (Haydn)
 string quartet nr62 op76 nr3 2mov "Emperor"
 (Haydn)
 from Miniatures on Georgian Folk tunes.
 Lake, Suliko, Joke, Zoli
 (Tsintsadze)
 Libertango
 (Piazzolla)

<BCO（ブリュッセル・チェンバー・オーケストラ）のご紹介>

1999 年、ヴァイオリニストの川村奈菜とチェリストの Mario Villuendas により創設された、弦楽器のみで構成された室内楽（チェンバー）オーケストラである。国際色豊かな音楽家が集まり、クラシック音楽を中心に完成度の高い楽曲構成と演目で演奏活動を続けてきた、ユニークなオーケストラである。

創設以来数々の著名な演奏家との共演を果たし、中にはイブリー・ギトリス、イゴール・オイストラフ、ワディム・レーピン、ボリス・ベレゾフスキー、成田 達輝、カーミーユ・トマ、アレクセイ・セメネンコ、マイケル・グッドマン等、日本でも知られた演奏家も多く含まれる。世界各地で招待を受け、ヨーロッパに加え、日本をはじめとしたアジア、アメリカでもツアーを行った。

冬季五輪カーリング パブリックビューイング

ベルギー日本人会 総務委員会
松浦 圭太

2026 年冬は 4 年に一度の冬季オリンピックイヤー！ 2024 年夏季のパリオリンピックに続き、ミラノ コルティナという欧州での開催です！

折角ならみんなで観戦して盛り上がりたという事で、一昨年に実施した夏季五輪バスケットボールに続く第 2 弾のパブリックビューイングとしてカーリング日本対韓国戦を、2 月 15 日（日）にブラッセル日本人学校の体育館をお借りして開催いたしました。



オリンピックのカーリングは 10 チーム総当たりで予選を実施した後に、上位 4 チームがプレーオフに進出してメダルを争う形式です。

日本はここまで 1 勝 3 敗と、プレーオフ進出に向けて負けられない状況。そんな緊張感を画面越しに感じながら、試合が開始しました。



カーリングは、「氷上のチェス」と呼ばれる頭脳スポーツです。皆さんの楽しみ方もさながら将棋の中継のようで、「次はどの一手？」を考えて、家族同士で会話をされていました。また、それに加えて勝負を決めるショットというスポーツ的な要素もあるのがカーリングの面白さです。要所要所の素晴らしいショットでは、会場から自然と歓声が上がります。

した。

試合はというと、前半は一進一退の攻防が続き、手に汗握る展開です。要所要所で日本代表のショットも決まり、会場からも歓声が上がります。

さて、カーリングのハーフタイムと言えば、そう、皆さんお待ちかねの「もぐもぐタイム」です。

カーリングの選手さながら皆で日本のお菓子を満喫します。10 分程のエネルギーチャージが完了したら後半戦開始です。



後半も途中まで同点の一進一退の攻防が続いていましたが、終盤に引き離されてしまい、残念ながら敗戦となってしまいました。

試合終了後は、「もぐもぐタイム」延長戦を実施しました。子供はおかしを食べ、大人は他では飲めない大和麦酒（やまとびーる）（注）を指定場所で飲んで喉を潤し、約 3 時間という長丁場の観戦の疲れを癒しました。

（注）日本食レストラン Yokatomo 他、ベルギー内のレストラン数店舗でのみ提供のビール

今回のオリンピックでは、女子日本カーリングチームは惜しくも予選敗退となってしまいました。このパブリックビューイングを機にカーリングに興味を持たれた方も多いのではないかと思います。是非これからも応援していきましょう！

160周年共催イベント マグリット講演会

ベルギー日本人会
藤井 泉、小笠 昇

2月16日の月曜日、ベルギーの有名画家、マグリットに関する講演会「現実と錯覚の狭間にて」が、在ベルギー日本国大使館広報文化センターで開催されました。同講演は日ベルギー友好160周年イベントとして認定されており、多くの会員が御興味を持たれる題材でありましたので、ベルギー日本人会も協賛させていただき、会員58名の御参加をいただきました。



講師は、ベルギー日本人会の会報「西洋絵画の楽しみ方」でもおなじみの、美術史家で、ベルギー王立美術館元公認解説者の森耕治さん。同氏が日本語に翻訳された、マグリット研究の権威ジャック・ロワザン博士のマグリット伝記に記載された内容にも触れていただきながら、一見難解なマグリットの絵を紐解いてくださいました。



不良だったマグリットの少年時代とその過去を恥じる気持ち。母親を自殺で早くに亡くしたその記憶。

これらが、顔が描かれない自画像や山高帽の男たちが個ではなく集団として認識させる絵、少年時代に住んでいた風景やモチーフを登場させていたり、過去や人生が絵に色濃くにじみ出ている解説が興味深かったです。



昼の青空の下に夜の風景の矛盾など、現実と錯覚が同時に存在しうること、当たり前と思こんでいる感覚を揺さぶられる仕組みは、シュルレアリスムを理解する一つの見方とも理解できました。



音楽でも、その時代背景や作曲家の人生や意図を元に行う作品解釈のように、シュルレアリスムの絵画を読み解く一つのヒントを頂戴しました。

近いうちにマグリット美術館を再訪しようと思います。

日本人学校セミナー「ヨガ体験教室」

ベルギー日本人会
野一色 守、小笠 昇

2月21日の土曜日、補習校の多目的室をお借りして、前回大好評でしたヨガの体験教室を開催しました。講師も前回同様、オーデルゲムで教室を持ち、職場への出張教室もされている神戸（かんべ）先生に来ていただきました。



応募者多数で抽選となりましたが、残念ながら当日来られなかった方々が4名いらっしゃいました。選に漏れた方々を代わりに呼びできましたので、イベントへの御参加キャンセルは事前にお教えいただけましたら幸いです。御協力くださいますよう、何卒よろしくお願い致します。



ヨガが初めてと言う方から、定期的に行われている方で幅広くいらっしゃいましたので、呼吸法から始まり、基本の山のポーズ（立ち姿勢）や杖のポーズ（長座）、複合的に動く太陽礼拝、筋肉をかなり使う椅子のポーズなど、多種多様なポーズを、其々ができる範囲で1時間たっぷり体験しました。



途中窓を開けねばならぬ程に身体が温まりつつも、リラックスする音楽や、常に意識するよう教えられた呼吸法、そして心身を整える時間も入れてくださったおかげで、気持ち良くスッキリと終わることが出来ました。



今後も会員の皆様へ、様々な体験をしていただくイベントを企画して参りますので、どうぞ楽しみに！

交通安全セミナー

ベルギー日本人会 総務委員会
松浦 圭太

3月に入り、徐々に日が長くなりつつあり、ようやく気持ちよく外出できる季節が到来しました。

会員の皆様の中もここからお仕事やご旅行等で自動車を使われる機会が多くなるかと思い、ベルギー交通ルールの復習や自信の無いところを確認する機会として、皆様の安全意識を高めるための交通安全セミナーを3月7日（土）にブラッセル日本人学校の多目的室をお借りして開催致しました。

なお、今回はより多くの方にご参加頂けるように、初の試みとして Zoom での同時配信も実施しております。

コンテンツは、1. ベルギーの交通ルール、2. 各種 Tips、3. 安全な運転に向けて、4. 他国運転のルールという4つと5. 質疑応答で、計45分で実施させて頂きました。

1. ベルギーの交通ルールでは、運転する上での基本知識（標識の見方、速度制限等）
2. 各種 Tips では、欧州に来て戸惑いやすい路上駐車関連の Tips
3. 安全な運転に向けてでは、事故や緊急事態発生時の対応方法や防犯上気を付けること等
4. 他国運転のルールでは、ドイツやフランスといった近隣諸国で運転する際に注意すべきことの紹介をいたしました。



質疑応答では、1. ベルギーの交通ルール、2. Tips でご紹介させて頂きました駐車関連のご質問、4. 他国運転のルールでご紹介させて頂きましたエコステッカーや各国ごとのチャイルドシートルール等を中心に幅広くご質問を頂きました。

やはり、陸続きの欧州、ということもあり、公私双方で他国に自動車で行かれる機会が多いため、各国のルールについて複数回ご質問を頂き、皆様の関心の高さを伺うことができました。

今回のセミナーを実施したことにより、交通ルールを改めて学び直すきっかけ、また、安全運転を心がけるきっかけになりましたら幸いです。

今後も安全・安心なベルギー生活に向けた企画を実施していきたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

動物園（Pairi Daiza）バスツアー

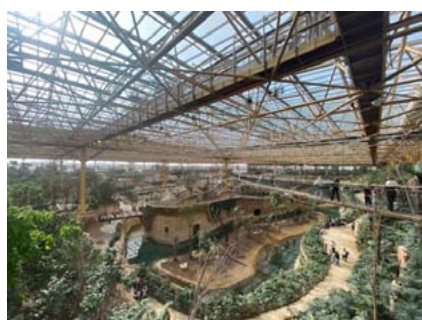
ベルギー日本人会 総務委員会
佐藤 孝一

昨年につき、本年も 3 月 8 日の日曜日、ベルギー動物園バスツアーとして、Pairi Daiza を 115 名（大人 69 名、子供 46 名）の日本人会会員の皆様と訪問いたしました。大型 2 階建バスと大型バス 2 台で大変賑やかなツアーとなりました。



当日は、朝方こそ霧模様でしたが、昼過ぎからは 3 月初旬にもかかわらず大変好天に恵まれ、日中の最高気温も 18 度に上昇し、あちこちで冷たい飲み物やアイスクリームを購入する店で行列が出来ておりました。また皆様のご協力のおかげで、スケジュール通りの運営が実現しました。

Pairi Daiza は 80 ヘクタール（東京ドーム 16 個分）の大変広い敷地を誇り、世界各地の 10 のエリアが広がります。今年は、本年 1 月にオープンした東京ドーム 1 個分相当の大型温室施設 Edenya がオープンし、そもそも広い敷地が、更に広くなり、1 日の見学時間ではとても足りなかったと思います。一部改装中でしたが、冬でも夏のような施設内は全天候型で楽しめる施設でした。



また、入園券に園内を周遊する蒸気機関車をセットでお渡しし、広い園内を 1 日で効率よく楽しんで頂きました。



日本では見られないパンダも待ち時間なくゆっくり見ることができる等、大変充実した笑顔を見ることが出来ました。今回もお子様には、動物マグネットをお土産に致しました。

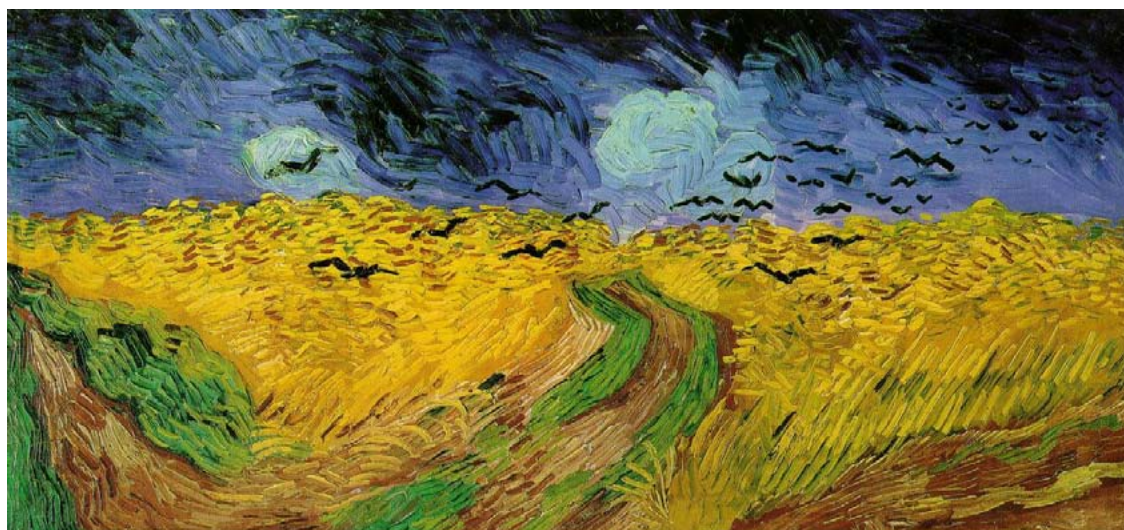


これからも楽しく御参加いただける企画を強化してまいりますので、どうぞ宜しくお願いいたします！

西欧絵画の楽しみ方 113

「カラスのいる麦畑」 ゴッホ

美術史家
森 耕治



「カラスのいる麦畑」
1890年7月10日頃
ゴッホ
ヴァン・ゴッホ美術館

「カラスのいる麦畑」は、1890年7月6日にゴッホがパリを訪れ、テオ夫妻と会ったのち、何らかの問題が生じ、その日のうちにオーヴェールへ戻った直後に描かれた3枚の風景画の一つです。この時を境に、ゴッホの心境には重大な変化が生じました。したがって、この作品は彼の自殺の動機を探る上でも、重要な手がかりを与えてくれるといえるでしょう。

かつてはこの絵がゴッホの絶筆と見なされてきましたが、現在では「木の根」が最晩年の作であるというのが、研究者の間でおおむね一致した見解です。

描かれた場所は、村の丘の上にある墓地から西へ約300メートル進んだ麦畑で、「オーヴェールの教会」の横道をさらに上ったあたりに位置しています。

テオの家を訪ねた7月6日に、ゴッホとその家族との間で何があったのかは、当時の手紙の一部が意図的に廃棄されたと見られるため、詳細は不明です。ただし、7月10日付の手紙には、その間に重大な問題が起きたことをうかがわせる記述があり、とりわけ次の一節は注目に値します。

「ヨーの手紙は、私にとってまさに福音のようなものでした。皆でともに分かち合った、あの少し困難で重苦しい時間がもたらした不安から、私を救い出してくれたのです。

こちらに戻ってからも、私はやはり深い悲しみにとらわれており、あなた方に迫るあの嵐が自分にも重くのしかかるのを感じ続けていました。とはいえ、どうすればよいのでしょうか。ご存じのとおり、私は普段はできるだけ陽気でいようと心がけています。しかし、それでも私自身の人生もまた、根本から脅かされているのです。私の歩みもまた、今やよろめいています。

私は、完全にというわけではありませんが、ある程度は、私があなた方の負担になっているのではと恐れていました。けれども、ヨーの手紙は、少なくともあなた方が、私が私なりに仕事をし、苦しみの中で努力していることをしっかり理解してくれているのだと、はっきり示してくれました。

こちらに戻ってから、私は再び制作に取りかかりました。とはいえ、筆は今にも手からこぼれ落ちそうでした。しかし、自分の描きたいものは明確にわかっていたので、それでもなお、大きなキャンバスを三点描き上げました。

それらは、かき乱された空の下に広がる、果てしない麦畑です。そして私は、それらの絵に、悲しみと、極度の孤独を表現しようとためらいなく取り組みました」

この手紙には、「大きなキャンバスを三点描き上げました」と書かれていますが、他の2点は「オーヴェールの乾草の山」と「雲の空の下の麦畑」だと

思います。

またこの手紙の中にある「私自身の人生もまた、根本から脅かされているのです」「それらの絵に、悲しみと、極度の孤独を込めようとためらいなく取り組みました」という言葉から、「カラスのいる麦畑」は、突如として襲ってきた深い悲しみと孤独感を、ゴッホが絵筆を通して可視化しようとした試みであると読み取ることができます。

画面概説

画面全体には、黄金色の麦畑が広がり、地平線の彼方まで続いています。収穫直前の麦は、穂が重たくなり、右方向に風に吹かれる



拡大図

ように傾いています。その傾きから、画面全体に風の流れが通っていることが伝わります。この風は、単なる自然現象としてではなく、画家の心の内にある動揺や不安を象徴するようにも思われます。

麦は短く力強いストロークによって幾重にも重ねられ、密集した量感とともに、うねるようなリズムを生み出しています。前景の草地でも、緑や黄土色の絵具が厚く塗り重ねられ、色彩の重層性が画面に緊張感を与えています。

画面中央には一本道が描かれ、地平線に向かって延びていきますが、その道は手前で左右に分岐し、三方向に分かれています。この交差点は、麦畑の中に置かれた十字架のようにも見え、絵全体に象徴的な重さを与えています。

その上には、濃いウルトラマリンヌの空が広がり、渦を巻くような筆致が空気の不安定さを際立たせています。左下には白い雲がわずかに覗いていますが、

黒々とした暗雲に呑み込まれそうな様子は、迫りくる嵐の気配を感じさせます。

色彩においても、手前の麦の黄金、空の群青、道の赤茶、そして鳥の黒が強く対比され、それぞれの原色がぶつかり合うような不安定な色調が、ゴッホの心理的緊張を増幅させています。

画面右上には、黒い鳥たちの群れが空を横切るように舞い上がっています。かつてこれらは「死の象徴」として解釈され、ゴッホの自殺の前兆と見なされました。しかし筆致をよく観察すると、これらの鳥たちは単なる点の羅列ではなく、各々が独自の動きを持って描かれており、風に逆らって上昇していくかのようにも見えます。集団ではなく、ばらばらであっても風と格闘しながら進んでいくその姿は、混沌のなかであって、なお生きようとする強い意志の表れであるように思われます。

画面構成においても、上下は水平線によって、左右は中央の道によって分断されており、それらが交わる画面中央には、まさに視線が自然に集まる焦点が置かれています。そこにイーゼルを立てたゴッホは、「私はどちらの道を進むべきか」と自らに問いかけているようにも感じられます。

これらの構成要素は偶然ではなく、ゴッホが画面全体を通して「人生の選択」「人生の岐路」といった問題に直面していたことを暗示しているのではないのでしょうか。

この絵が描かれた頃のゴッホの心境の変化

ところで、冒頭でも述べたように7月6日にパリのテオ夫婦のアパートを訪れたゴッホは、その日のうちに疲れてオーヴェールに戻ってしまいました。

テオの妻ヨーの回想録によると、彼を疲れさせた

グローバルネットワークでお客様の 引越 / 輸送ビジネスをサポート

- ・日本人立会い
- ・ハウスクリーニング
- ・不用品回収
- ・お譲り品のお届け



N X ベルギー株式会社(旧:ベルギー-日本通運)
NIPPON EXPRESS (BELGIUM) N.V./S.A.

TEL : +32 (0)2-751-7814/15

NEBE-removal@nipponexpress.com

<https://www.nipponexpress.com/moving/be/>

理由として、次の四つの要因を挙げています。

1. テオがグーピル商会をやめて独立しようとしていた。
2. 甥のヴィンセントが7月初めに病気になり、テオ夫婦はその看病でくたくたになっていた。
3. ゴッホは自分の絵の保管場所が気に入らなかった。
4. 大勢の友人たちが一度にゴッホに会いに来た(1)

しかし、ゴッホがオーヴェールに戻った7月6日から10日までの間、ゴッホとテオ夫婦との間で交わされたはずの手紙が奇妙にも紛失、あるいは意図的に破棄された形跡があることから、実際にはもっと深刻な問題があり、ゴッホの死後、ゴッホ家の名誉のために意図的にヨハナによって破棄されたと思われる。

また当時テオはパリの有名画廊の支配人であり、テオの収入なら、ゴッホに仕送りしていた月150フラン約22万円、絵の具代を含めてもせいぜい40万円の仕送りは、負担できない額でもなさそうで、どうやら本当の理由は別のところにありそうです。

恐らくヨーが書いた回想録でも、あえて述べず、破棄された手紙に書かれていたゴッホの人生に決定的な打撃を与えたと思われる2つの要素があったと思われる。

その「破棄された手紙」に書かれていたであろう二つの要因は、次の通りです。

1. テオが梅毒に罹患し、入院の必要があることを知らされた可能性
2. テオの入院によって、テオからの仕送りが今後打ち切られるのではという経済的不安

弟のテオは、兄が自殺した翌年の1月25日にユトレヒトの病院で狂い死にしました。病院のカルテには、梅毒という言葉は見当たりませんが、狂死の原因は梅毒であるという説は、多くのゴッホ研究者によって支持されています。

当時梅毒が蔓延していたとはいえ、ゴッホの弟が梅毒で狂死したことは、名門ゴッホ家にとって冗談にも名誉な話ではありません。それが、ヨハナが7月にゴッホに送った手紙を、後に彼女が破棄した理

由だったのでしょうか。

テオはヴィンセントの死からたった3ヶ月もたない10月半ばに発狂し、他界したのは、それから3ヵ月後の1891年1月でした。兄ヴィンセントの死からたった6ヵ月後でした。しかも、11月18日にオランダのユトレヒトの病院に運ばれてきた時には、「時間と空間の感覚がなくなり、何を話しているのか理解できない。」「全身麻痺が進行」「衣服を引き裂いた」「食事を取ることができない」「歩行困難」「パリにおいて、患者は進行性全般麻痺と診断されました。残念ながら、私たちはこの初診後、この診断を支持せざるを得ません」(2a)といった病院の医師の記録が残っています。

「進行性全般麻痺」(paralysie générale progressive)とは当時の医学用語で梅毒の末期症状(進行麻痺)を指す場合が多い表現です。

また12月30日付のカルテには、次のような興味深い記録があります。「今朝、亀頭部にいぼ状の円形の脱毛様病変(pelade)が見つかり、その表面に小さな出血があった」(2b)

このような症状は、「テオは兄の死から立ち直れずに狂い死にした」という従来解釈では、到底医学的に説明ができず、テオが梅毒に侵されていた可能性が極めて高いと思われます。

テオの死が、実際に梅毒によって引き起こされたのなら、病院に連れて来られたときは、すでに第4期と呼ばれる末期症状だったはずで、それに、テオが感染した期間ももっと何年も前のはずで、ゴッホが自殺した頃には、明らかな自覚症状も出ていたことでしょう。実際に、ゴッホがオーヴェールにいた直後に母に送った手紙には、テオが以前よりも顔色が悪いと書いています。

しかし、現在のような社会保険はなく、治療のために入院すれば妻も赤ん坊も、兄のヴィンセントも全員お金がなくなって路頭に迷うことになります。そこで、テオはたまりにたまった兄の絵が売れだすことを願いながら、最後の最後まで病気を隠して働き続けたのです。

でも、とうとう手遅れになりつつあることが分かり、それを兄のヴィンセントが7月6日にパリにやってきた際に打ち明けたのではないのでしょうか。テオが入院すれば、とうぜんヴィンセントには仕送りをする人がいなくなり、彼は生きていけなくなります。そのことを理解してからは、ゴッホは絶望と

闘い続けたのです。

そんなヴィンセントの絶望感を察して、弟のテオは7月14日に次のように語っています。

「君が、ここにいたときのように未解決の問題に心を押しつぶされていないと知って、私たちはとても安心しているよ。実際、君が思っていたほど事態は深刻ではないんだ。もし私たち全員が健康でいて、少しずつ頭の中で形になりつつある計画に取り組むことができれば、すべてうまくいくだろう」

ここでテオは、二人の間に未解決の問題があることと、健康の問題がからんでいることを示唆しています。

黒い鳥は果たしてカラスか

この作品は、長年にわたり、画家の心の闇や絶望の象徴であり、ゴッホの自殺の予兆と見做されてきました。どこへ向かうのか分からない三方向に分かれた道、画面全体を覆う暗く不穏な空、そして不気味に舞う黒いカラスたち、それらはしばしば死や脅威の前触れとして象徴的に解釈され、ゴッホの精神的混乱と自殺願望の投影と見做されてきました。

しかし、それは後世の勝手な解釈によるものであって、ゴッホが描いた黒い鳥が実際にカラスであるという証拠も、「死」の象徴であるという証拠もありません。

その上、実際に夏にオーヴェールに行けば分かることですが、現在のオーヴェールでは、カラスを見かけること自体が稀です。時々、仏語でCORNEILLEと呼ばれる、もっと小さな黒いはしほそ鳥をみかけるだけです。しかし、いつの間にやら、不気味なカラスが麦畑を飛ぶ情景という定説が定着してしまいました。

そのために昔、1955年ごろ、ミネーリという映画監督が夏にオーヴェールでゴッホの映画を撮影した際、どうしても「カラスのいる麦畑」の光景を撮影したいと願ったのですが、すぐにこの時期に本物のカラスはいないことを知り、地元の住人に、はしほそ鳥を捕まえて撮影用に持ってきてくれた人には一羽につき5フラン払いますという広告を出しました。



現在の畑

それでオーヴェールの住人は、夜、鳥が寝ている間に捕まえに行っていい小遣い稼ぎをしたというエピソードが残っています。

その後、日本の黒田監督が、後に短編映画「夢・鴉」をオーヴェールで撮影した際には、監督は、入手困難なはしほそ鳥の使用を見合わせて、なんと普通のハトを大量購入して、それに黒いペンキを塗って麦畑から放ちました。そのシーンを見ると、確かに離陸が下手くそなカラスと違って、一瞬にしてペンキを塗られたハトが空に舞い上がっています。

黒い鳥の本当の意味

次に、ゴッホが描いた黒い鳥は本当に死の象徴なのか、という本質的な問題について考えたいと思います。聖書的な文脈やゴッホの自然観を踏まえるならば、カラスは「死」の象徴というよりも、むしろ「再生」や「希望」の兆しを示す存在として捉えるべきです。

鳥が「死」や「不吉なこと」を暗示するという解釈の起源は非常に古く、古代ギリシャのホメロスの叙事詩「オデュッセイア」には、トロイア戦争の英雄でイタケ国の王オデュッセウスの長い不在の間に、王宮で勝手に飲み食いし、財産を篡奪する者たちの頭上に、ゼウスが二羽の鷲を飛ばし、彼らを威嚇した場面が記されています(3)。これは、その後続くオデュッセウスによる血なまぐさい復讐劇の前兆として解釈されてきました。

さらに、ラテン文学の最高峰とされる古代ローマの詩人オウィディウスが紀元1世紀に著した「変身物語」には、黒いカラスの由来を語る有名なエピソードが登場します。もとは純白の羽を誇っていた

カラスが、太陽神アポロンの愛人コロニスの不貞をアポロンに告げ口しました。

アポロンは真実を知って激怒し、コロニスを弓で射殺しますが、その後に深い後悔に苛まれます。そして、告げ口をしたカラスは「不吉な密告者」とされ、白い羽を黒に変えられました。この出来事以降、カラスは「不吉の象徴」として人々に受け止められるようになったのです(4)。

中世においても、黒い鳥はしばしば不吉や死の象徴として描かれました。ブリュゲルの作品にも、黒い鳥が死のアレゴリーとして登場する例が少なくありません。

このような歴史的背景に加え、黒い鳥を「死の前兆」と見なす傾向は、現代においてもなお根強く残っています。その理由のひとつが、アメリカの作家アーヴィング・ストーンが1934年に発表した伝記小説「炎の人・ゴッホの生涯」です。この小説は、ゴッホが自殺を試みる前日に「カラスのいる麦畑」を描いたという筋書きを広め、この絵を「遺作」とする伝説を決定的にしました。

同書には次のような描写があります。

「フィンセントは描き続けた。黄色い小麦畑の上に舞う鳥を描いた。どれくらい絵筆を振るっていたのか分からなかったが、ふと描き上がっていることに気が付いて、画布の片隅に『カラスのいる麦畑』と書き入れた」

「次の日の午後、彼はまた家を出たが、今度は村役場からの道を歩いて行った。彼は丘を登って城館を過ぎた。(中略)絵でさようならを言わねばならぬ。しかし、さようならを絵に描くことはできない。フィンセントは頭を上げて太陽を仰いだ。脇腹にピストルを当てる。そして引き金を引いた」(5)

しかし、この伝記小説の描写には歴史的な裏付けが乏しく、一定の史実の間に著者の想像が大きく補われています。フランスではこの種の作品を「Biographie romancée (伝記小説)」と呼び、学術的な引用には慎重さが求められます。

さらに、黒澤明監督の映画「夢・カラス」も、この伝説を補強しました。映画では、ゴッホが麦畑でスケッチをしながら「急がねば。時間がない。絵を描く時間はもう少ししかない」とつぶやいた後、こ

の「カラスのいる麦畑」から黒い鳥が一斉に飛び立つシーンで幕を閉じます。これが、カラスを死の象徴とみなす解釈を一層強化したのです。

加えて、近年ではAIによる情報提供の中にも、このような不正確な伝記小説に基づく解釈が、あたかも事実であるかのように提示されることが少なくありません。

ここで発想の転換が必要です。西洋美術史においては、確かにカラスは死の象徴とされることが多いのですが、牧師の長男として育ち、幼い頃から聖書に親しみ、ブラッセルの宣教師学校で学び、ベルギー南部の炭鉱町で一時期伝道師を務めたゴッホの作品に、その象徴を機械的に当てはめることには無理があります。

ゴッホにとってカラスは、もっと身近で異なる意味を持つ存在でした。それが旧約聖書の「創世記」第7章・第8章に描かれたノアの箱舟の物語です。大洪水ののち、箱舟はアララトの山にとどまり、やがて山々の頂が見え始めます。四十日が過ぎてノアは窓を開き、最初にカラスを放します。聖書は「カラスは地の水が乾くまで、出たり入ったりした」と記しています。つまりカラスは、水が完全には引ききっていない荒涼の世界と箱舟を往復しながら、減水の過程を探る偵察役を務めたのです。続いてノアは鳩を放ちます。最初の鳩は足場がなく戻り、七日待って放った二度目の鳩は夕方、オリーブの若葉をくわえて帰って来ます。さらに七日後、三度目の鳩は戻りませんでした。

ここでは、カラスが「最初の使者」として水が引き始めた兆しを告げ、鳩が「確かな地上回復」の証拠を携えるという、段階的な救済のドラマが描かれています。重要なのは、カラスが単に不吉の象徴ではなく、大混乱のただ中に最初の変化をもたらす存在として置かれている点です。

しかも「オリーブの葉」は平和と再生の徴として後世に広く受け継がれ、ゴッホ自身もサン・レミでオリーブの木を繰り返し描いています。つまり、カラスとオリーブという二つのモチーフは、聖書の文脈のなかで「荒れた世界から秩序へ」「絶望から回復へ」という緩やかな橋渡しを担っているのです。

つまりカラスは、荒廃した世界の中に希望の兆しをもたらす存在であり、死の象徴とはむしろ対極にあります。

彼が麦畑の上を舞うカラスを最初に描いた作品は、「ジャガイモを食べる人たち」と同じ年、1885年、オランダのヌエネンで制作した「ほしわらと風車」（ゴッホ美術館）です。画面には、刈り取りを終えたばかりの力強い積み藁が堂々と立ち、その上空をカラスたちが舞っています。

この絵は、去年大阪市立美術館で開催された「ゴッホ展、家族が見つない画家の夢」で展示されました。その図録においても「これはファン・ゴッホにとって、人生や果てしなく繰り返される季節の大いなる循環、すなわち永遠の象徴だった」(6)と記されているように、カラスのいる麦畑のテーマは、生命の営みと再生の予感を同時に感じさせるものであり、不吉な死の予感とは対照的です。強いて言えば「永遠に繰り返される命の循環」の中には、生もあれば死もあるということです。

また伝道師の夢が破れた1880年、ベルギーの炭鉱地帯から弟テオに宛てた手紙には、鳥に関する興味深い記述が見られます。

「春になると、鳥かごの中の一羽の鳥は、自分が何かの役に立てることを強く感じます。何かすべきことがあると、強く感じるのです。しかし、それをするのができません。それが何なのか、うまく思い出せないのです。それでもかすかな思いがよぎり、『ほかの鳥たちは巣を作り、雛をかえし、子育てをしているのに』と思います。そして鳥は、檻の鉄格子に頭をぶつけます。けれども檻はそこにあり続け、鳥は痛みに狂わんばかりになります」(7)

しかし「カラスのいる麦畑」の鳥たちは、この手紙に描かれたような鳥かごの中の囚われた鳥ではありません。嵐を思わせる不穏な空の下で、一斉に飛び立つ自由な鳥たちなのです。もしここに描かれた黒い鳥たちがカラスであるならば、ゴッホが描いたのは、十字架のように見える農道の上で嵐と闘おうとする、自由なカラスたちの姿にほかなりません。

嵐に立ち向かうカラスたちは、悲しみと孤独に抗おうとするゴッホ自身の姿の投影であり、同時に「嵐の後に訪れる希望」を示す存在でもあったのです。ゴッホはこの情景を描くことで、自らを励まし、困難に立ち向かう力を奮い起こしていたのでしょう。



麦畑の案内版

まとめ

「カラスのいる麦畑」は、しばしば「自殺を予告した絵」と見做されますが、実際にはそうではありません。麦畑に分かれた三つの道、嵐を予感させる空、そして風に逆らって飛び立つ鳥たちは、ゴッホが深い孤独と不安の中でも、なお生きようとする力を絵に託したことを示しています。カラスの群れは、絶望や不安に打ち勝ち、弟テオと共に歩み続けようとする意志の象徴とも言えるでしょう。したがって、この作品は、ゴッホの苦悩を描いただけでなく、最後まで描き続けることで自らを励まし支えようとした強い精神の証でもあります。

註

1. 「フィンセント・ファン・ゴッホの思い出」 ヨー・ファン・ゴッホ著、林卓行、吉川真理子訳、東京書籍、p206
2. Vincent Van Gogh à Auvers, Water Vander Veen, Peter Knapp, Chêne p261, 264
3. 「オデュッセイア上巻」 ホメロス、松平千秋訳、第二歌 p4232. 「炎の人ゴッホ」
4. 「変身物語上巻」 オヴィディウス、中村善也訳、岩波文庫、p77-82
5. アーヴィング・ストーン著、新庄哲夫訳、中公文庫、p793-795
6. 「ゴッホ展、家族が見つない画家の夢」 図録、p92
7. 1880年6月24日付のテオ宛ての手紙

友達の輪

日本ベルギー 160 年目の友好②

ベルギーのありふれた日常 22

ベルギー文庫

藤野 ユミリ

ある一人の元外交官が注目を浴びている。

植民地コンゴがベルギーから独立したときの数あるゴタゴタのうち、やはりパトリス・ルムンバ首相殺害は最もショッキングな事件としていまだ両国に禍根を残している。当時並みいるアジア・アフリカ諸国の独立機運の真っ只中であって、宗主国ベルギーは長年欲しいままにしてきたコンゴにおける利権を手放すに忍びなく、豊かな鉱山資源の埋蔵を誇るカタンガ州をコンゴと分離させて別の独立国家に仕立て上げようと画策した。ベルギーの黒い歴史だ。軍隊を派遣して内乱を誘発し、それはコンゴ軍部のクーデタへと発展し、独立に燃えていたナショナリストの獅子ルムンバは逮捕殺害され、しかも遺体は劇薬で溶かされるという凄惨さ。この動乱を収束させようと乗り込んできた国連事務総長まで偶発事故のように飛行機墜落で死んでしまった。いったい誰と誰が何を思ってどう絡んでルムンバは殺されてしまったのか。これまで映画になりドキュメンタリーになりして人々の関心をひきつけてきたものの、歴史の闇はどこまでも深い。

事件から 65 年経った今、コンゴ動乱の当時現地にはいた一人のベルギー人外交官を事件の証人として喚問するというベルギー司法の決定がなされた。長年にわたって事件のグレーゾーンにいたことで知られる人物がついに！とメディアがこぞって沸き立っている。果たして国家の関与はどこまであったのか、彼は陰謀に加担したのか、させられたのか、見て見ぬ振りしたのか、何もしてないのか。

ガラッと話は変わる。

3 月半ば、明治の洋画家の児島虎次郎（こじま・とらじろう 1881 - 1929）に関する講演会があり、ブリュッセル自由大学のジャポノロジーの学生さん方に混じって聞いてきた。講師は寺田寅彦という東大教養部のフランス文学の先生。

児島虎次郎といえば、岡山県倉敷にある大原美術館が誇る、エルグレコ、モネ、ゴーギャン、マチス、ロートレックなどの錚々たる西洋コレクションはじめエジプト美術、ペルシャ陶器、中国美術などの蒐集に奔走し貢献した人物としてよく知られている。



さらにベルギー目線で語るならば、1909 年から画業修練のためゲントの美術アカデミーに滞在（1912 年まで）していた。下宿先の女の子などに着物を着せてモデルに描いたチャーミングな作品が有名で、パリに吹き荒れたジャポニズム華やかかなりし名残を当時のゲントの人々は味わったに違いない。

この頃の虎次郎の日記には「パイク君」なる 9 歳年下の友人の名前がしばしば登場する。今回の寺田先生の講演のテーマはこの二人の画友仲間の交流に光を当てた「ベルギー日本友好 160 年」というタイミングに相応しいエピソード。そのなかで紹介された、パイク君が虎次郎にあてた手紙の文面は、それはそれは慈愛と尊敬に満ち溢れていて、芸術家同士の魂レベルのつき合いとはこんなにも崇高で詩的なものなのか……もうボーイズラブともみまごうほどに……ランボーとヴェルレーヌの愛憎劇だって最初は高邁な魂の触れ合いから始まったって話だし。などなど凡人の想像は尽きない。

ものの本によると虎次郎は、最初の留学先のパリでは病気になったり色々あったりどうも馴染めなかったらしく、当時ゲントで画業に励んでいた東京美術大の同窓、太田喜二郎（おた・きじろう 1883 - 1951）の元を訪ねて行ったのがきっかけで、うまい具合に水が合ったのだろう、そのまま 3 年をゲントの地に過ごした。

喜二郎も虎次郎も東京芸大時代の師匠は黒田清輝。そのアドバイスのもとにヨーロッパにやってきたのだが、喜二郎の場合、「君は京都出身で性格が

温厚だからパリよりもベルギーに行きたまえ」みたいに言われたらしく、ベルギー絵画の第一人者エミール・クラウスの元へやってきた。クラウスは印象派の中でも光の表現を強く志向するルミニズムという技法で名を馳せていた。その指導は相当厳しかったらしく、時に喜二郎は色使いに激しいダメ出しを喰らって作品を床に叩きつけられることもあったとか。Non！そうじゃな～い！！バァーン！！性格温厚な太田喜二郎はビビリながらも努力と研鑽を積んだのだろう。そもそもクラウスは弟子の受け入れを渋っていたところ、そこをなんとかお願いしますと必死にクラウスを説得してくれたのがブリュッセルの美術アカデミーに在籍して彫塑を学んでいた武石弘三郎（たけいし・こうざぶろう 1877 - 1963）。彼はもう一人の美大の同窓、心強い兄貴分である。芸術家も法律家も政治家もお金持ちもゴールドラッシュの如くみんなパリを目指していた時代、児島虎次郎、太田喜二郎と並んで異色のベルギー組だ。

2023年この3人にスポットを当て「ベルギーと日本」という展覧会が日本各地で開催された。ベルギーを通過して日本の美術界に名を成したこれら3人の作品を紹介すると同時に、戦前の日本でどのようにベルギー美術が知られていったかをたどる内容だった。これが1923年の関東大震災から100年の年に行われていることに大いに注目したい。この時、未曾有の大災害にあった日本を救え！とばかりにベルギーは多くの芸術家の作品をチャリティバザーのために贈ってくれたのである。中には前述の「パイク君」たるフランソワ・パイク François Pycke の作品も数点あり、現在、皇居三の丸尚蔵館には縦2m近くある大きな彼の絵が所蔵されているという。宮内庁管轄の美術館にパイク君の絵！すごいじゃないかパイク君！なぜかベルギーでも日本でもあんま有

名じゃないのだが、そこにはベルギー日本友好160年の秘話が満載である。

ブリュッセルの武石弘三郎に話を戻そう。彼は3人の中では一番にベルギー入りした。滞在1902年から1909年。その頃のベルギーはレオポール二世治下、世界的な産業革命の波に乗り、コンゴ自由国からわんさかやってくる富も得て、殖産興業の繁栄真っ盛り。彼はエネルギーでノリノリのベルギーの風景を日々目にしていたことだろう。日本の通商関係者や外交官などパリやロンドンに比べて相当少なからうがそれゆえ一層日本人同士の繋がりは密だった様子。ことに公使館の外交官なんかは貧乏学生武石を会食に誘ったり北海の別荘に招待したり、何くれとなく面倒を見てくれていた。彼が生涯残したブロンズ胸像のお歴々の顔ぶれを見れば、交流の輪の広がりもゴージャスだ。渋沢栄一（一千万円の）、森鷗外、西園寺公望（首相）、大倉喜八郎（実業家）、加藤恒忠（正岡子規の叔父さんで外交官）……

武石弘三郎のことを色々と調べていると、彼がブリュッセルに導かれてやってきた経緯が想像できるようなエピソードが散りばめられていて興味深い。

まず彼のお兄ちゃんは地元越後長岡の教育に貢献した有名な漢学者武石貞松（たけいし・さだまつ）、そしてその親友に堀口九萬一（ほりぐち・くまいち）なる人物がいた。のちの詩人堀口大學（ほりぐち・だいがく）のお父さんである。で、九萬一さんの奥方（2度目の）がベルギー人で、そんなこんな縁で弘三郎は彼女の両親のうちに寄宿できる運びとなった。留学先の衣食住のうち3分の2が保証されていたなんて超ラッキー！この九萬一の妻スティナさんのお父さんにして弘三郎の家主さんは裁判所の書記官だった人で、1873年、かのヴェルレー

人材探しなら

インフィニティ

 INFINITY
RECRUITMENT

転職をご検討の方 / 人材をお探しの企業様

✉ info@infi-r.com

🌐 www.INFI-R.com

☎ 02 356 9886

🏠 Chaussée de Vleurgat 119, 1000 Brussels

ヌがランボーとの愛の逃避行の末別れ話のこじれから引き起こしたピストル傷害事件（ブリュッセル事件）の裁判にたずさわっていたのだという。でもってのちに堀口大學がランボー詩「酔いどれ船」を訳しているんだから、因果はめぐる糸車。

その昔ある一人の若き外交官がいた。

彼は1895年、朝鮮で日本の軍人や外交官が起こした閔妃(みんぴ)暗殺事件の工作員。事件はこうだ。日清戦争が終わり、朝鮮半島を影響下に置きたい日本にとって、李王朝宮中のインフルエンサーにして「ロシア鼻眞」の皇后閔妃は邪魔者だった。当初の計画では、国王の父で「親日派」である大院君を担いだクーデタを偽装して、その警護の名目で日本人の襲撃部隊が宮中へ押し入る、というもので、そのプランを大院君に伝えて説得するというのがこの新米外交官のミッションだった。が、二人の共通言語は双方カタコト。密談を盗聴されてはいけない。結果、交渉は漢詩を介した筆談でなされるという、ものすごく風流なスパイ大作戦となった。でも事はうまく運ばず、ドタバタのうちに実動隊が突入して他国の王の妃を殺すという暴挙に発展してしまった。国際社会の目も光る中なんと直裁的でお粗末な。日朝修好条規の下、日本人に朝鮮の裁判権はおよばず。開国後欧米にさんざん苦渋を飲まされた不平等条約、相手をかえて飲みしちゃってる。おかげで彼を含む関与の56人は日本の裁判のもとで全員無罪放免、釈放となった。日本の黒い歴史だ。

その外交官こそが堀口九萬一その人である。親友の武石貞松（つまり弘三郎のお兄ちゃん）と並ぶ地元の秀才で、第一回外交官試験の合格者。輝かしいキャリアの始まりかと思いきや、あわや最初の赴任地朝鮮で、ああ……。その後彼はベルギーはじめ地味めな国々を転々とするのだが、どうも彼は常に機転が効いてフットワークがひじょうに良かったようで。ベルギーでは再婚相手を見つけるし、ブラジルではアルゼンチンに飛んでロシアを出し抜いて軍艦の買い付けに成功し、メキシコ革命のドサクサの中では暗殺された大統領の家族をかくまって、さすがはサムライ！と称賛されている。

九萬一さんの退官後の回顧録には、閔妃事件の際大院君と交わした漢詩などを引き合いに、彼こそが事件の首謀者だった、という当事者たちの言説を忠実に裏書きしている。ところがだ。その一方で、無

二の親友武石貞松にだけは、自分たち日本人がいかにして事件に関与し皇妃を殺したのかの経緯を生々しく記した複数の手紙を宛てていることもわかっている。歴史の闇はどこまでも深い。

冒頭のベルギー元外交官の証人喚問はこれからだ。御年93歳。文字通り最後の生き証人は何を語り、語らないのか。この人にもこっそり生々しく秘密を告白できるような親友がいたりしないかしら。想像は尽きない。

おもな参考文献資料

寺田寅彦「ベルギー人芸術家と日本人芸術家の出会い フランソワ・パイクと児島虎次郎」超域文化科学紀要 2023年

柏倉康夫『敗れし国の秋のはて 評伝堀口九萬一』左右社 2008年

角田房子『閔妃暗殺』新潮社 1998年

Minako Sakakura, Through the eyes of a Japanese sculptor Kozaburo Takeishi in Belgium(1902-1909), Kindle2025

「ベルギーと日本」展 2023年、「虎次郎の夢 大原美術館所蔵名画への旅」展 2026年カタログ

「外交官『王妃殺した』と手紙に 126年前の閔妃暗殺事件で新資料」朝日新聞 2021年11月16日

告知板

このページは、会員の皆様の情報交換の場です。

- ・各種同好会の案内、募集
- ・求人／求職
- ・同窓会の案内通知
- ・譲ります／譲られたいなど、
- ・各種イベントの案内
- ・どしどしお寄せ下さい。

200 字以内にまとめて下記宛送付下さい。

e-mail: jimukyoku@nihonjinkai.be
 *紙面の都合上、編集することもありますので、ご了承ください。

日本人会関係行事予定

| 日程 | 内容 | 場所 |
|---------------|---|----------------------------|
| 2026 年 | | |
| 2 月 13 日 (金) | クラシック音楽をもっと楽しもう会 | ブラッセル日本人学校 |
| 2 月 15 日 (日) | 冬季オリンピックパブリックビューイング | ブラッセル日本人学校 体育館 |
| 2 月 16 日 (月) | 講演会「ルネ・マグリット、現実と錯覚の狭間にて」 | 在ベルギー日本国大使館広報文化センター |
| 2 月 21 日 (土) | ヨガ体験教室 | ブラッセル日本人学校 多目的室 |
| 3 月 5 日 (木) | 2025 年度 第 4 回 役員連絡会 | ベネルックス住友商事 会議室 |
| 3 月 7 日 (土) | 交通安全セミナー | ブラッセル日本人学校 |
| 3 月 8 日 (日) | ベルギー動物園 (Pairi Daiza) バスツアー | Pairi Daiza 動物園 |
| 3 月 10 日 (火) | 2025 年度 第 4 回 理事会 | ブラッセル日本人学校 多目的室 |
| 4 月 26 日 (日) | 日ベルギー友好 160 周年イベント「フォロンと日本」 | フォロン財団 |
| 4 月 28 日 (火) | 日ベルギー友好 160 周年記念 ピエール・マルコリーニ チョコレートテイ スティング&ペアリング体験 | ピエールマルコリーニ サブロン店 |
| 5 月 7 日 (木) | 2025 年度 第 5 回 役員連絡会 | ベネルックス住友商事 会議室 |
| 5 月 12 日 (火) | 2025 年度 第 5 回 理事会 | ブラッセル日本人学校 多目的室 |
| 6 月 11 日 (木) | 2025 年度 第 6 回 役員連絡会 | ベネルックス住友商事 会議室 |
| 6 月 19 日 (金) | 2025 年度 第 6 回 理事会・2025 年度 総会 | Renaissance Brussels Hotel |



UIJIN BEER 初陣

330ml, Alc 6.0%

ベルギー産酵母と手間をかけたホッピング手法により華やかでフルーティーな印象を持つビールです。大麦麦芽と小麦麦芽の絶妙なブレンドにより醸し出されたフレッシュかつ奥深い味わいをお楽しみください



UIJIN YUZU BLOND 初陣柚子ブロンド

330ml, Alc 6.5%

初陣同様にベルギー産酵母を使い、丁寧なホッピング手法で醸造された大麦麦芽100%のブロンドビールです。ホップと同時に高知県産柚子の皮の部分だけをビールに漬け込み、爽やかな苦味を引き出しています。

お買い求めは下記食品販売店でお願いします
 田川 (ブルガット、ストックル、デルタ)
 Asia Supermaekrt (Rixensart) FRESHMED (Etterbeek)

商品のお問い合わせ先； info@riobrewing.jp
 レストラン、量販店様のご注文は
 Foodex Belgium SPRL 電話 02 721 14 21 まで

●**学習院の卒業生、及びゆかりのある皆様へご連絡**

コロナ禍来、活動が休止しておりましたベルックス桜友会の活動を再開致したく、ベルギー、及びルクセンブルグ在住の学習院卒、及び、関係者の皆様でお力添え頂けます方、是非下記メールアドレスにご連絡をお願い致します。

小出敦 atsushikoide0221@gmail.com

●**日本語カトリック教会からのお知らせ**

5月10日(日)は、「集会祭儀」です。

6月14日(日)は、「ミサ」です。

時間:いずれも、11:30~12:30

場所:スクート会聖堂

住所: Chaussée de Ninove 548,
1070 Bruxelles

聖書勉強会

5月3日(日)14時~16時

6月は未定

場所: Av. Clemenceau 70, 1070 Brussels

上記内容は時に変更されますので、予め下記にてご確認下さい。

☆ <https://www.facebook.com/groups/592349231569301/>

☆ nihongomisa@gmail.com

☆ 長南恵子:0486-775750

●**日本図書館 Biblio Japon ご案内**

本会は、日本書籍の貸し出しを通じて、ベルギー生活を豊かに過ごすための会員制文化サークルです。

図書館の活動場所が以下の住所に変わりました。

Eglise Sainte-Cecile

Parvis Sainte Cecile, 1083 Bruxelles(Ganshoren)

貸し出し以外にもイベント(読書会・映画会・講演会・音楽会・遠足など)を開催します。

皆様のご参加をお待ち申し上げます。

連絡先: 中山 bibliojapon@gmail.com

詳細はフェイスブックをご覧ください。

www.facebook.com/groups/bibliojapon

●**コーラスふるさとご案内**

歌好きの仲間が集まって日本の合唱曲を楽しむ混声合唱団です。月一回第3土曜日午後3時から5時まで練習します。

5月は第3土曜日16日に行います。

場所 BLA (METRO MERODE)

Rue de Aduatique 16,1040 Etterbeek

コーラス初心者の方も合唱の基本を学びながらコーラスを楽しみませんか。

www.facebook.com/chorusfurusato

連絡先: 中山 hiro.nakayama.bxl@gmail.com

●**Japanese Culture WA の月例会のご案内**

日時: 2026年5月3日, 6月7日

場所: OpWeule (会議室4)

住所: Sint-Lambertusstraat 91, 1200 Brussels

10:00-13:30 紙芝居練習

10:00-12:00 硬筆アトリエ

14:00-16:00 会話テーブル

6月7日のみ

16:30-18:30 カラオケパーティ

参加は無料です。ホームページのカレンダーで確認してください。

Japanese Culture WA 0477 36553

<https://www.jcwa.eu> info@jcwa.eu

【会報アンケートのお願い】

より良い会報づくりのため、読者アンケートを実施中です。

QRコードまたは以下のリンクから、簡単にご回答いただけます。

読者アンケート：<https://forms.office.com/e/hJpq7uA3pq>

所要時間は約3分。皆さまのご意見をお待ちしております！

ご協力おねがいたします！



編集後記

長かった冬の日々もやっと終わり、新緑が美しく気温も心地いい季節になってきました。ベルギーでの初夏は今年で 4 回目になりますが、この時期になると自然と明るい気持ちになります。皆様はいかがお過ごしでしょうか。

さて、皆様ご承知のとおり、今年は日本とベルギーの国交樹立 160 周年を迎える記念すべき年です。これを記念して、すでに様々なイベントが開催されておりご参加いただいた方もおられると思います。8 月にグランプラスで開催されるフラワーカーペットは今年は日本がテーマということで個人的にもどんなカーペットが現れるのか大変楽しみにしています。

世界の分断が課題となってきた中、こうした交流を通じて日本とベルギーの友好関係がさらに深まることに個人的にも期待しています。今後もさまざまなイベントがあるかと思えます。皆様もご興味があるイベントがあれば積極的にご参加いただければ幸いです。

(月担：増山)

広告を募集しております。

掲載ご希望の方は前もって、日本人会事務局へご連絡の上、以下の枠内に編集した PDF ファイル（カラー、リンク可）を日本人会事務局（jimukyoku@nihonjinkai.be）へご送付下さい。

| Size | Member Price | Non-Member Price |
|-----------------------------------|--------------|------------------|
| 1/4 Page (縦 60 × 横 198 mm) | 60 € | 170 € |
| Full Page (A4) (縦 297 x 横 210 mm) | 200 € | 450 € |

原稿締切は原則会報発行月の前月 1 日です。詳細は日本人会事務局までお問い合わせ下さい。掲載広告については、当会が内容を保証するものではありません。情報の詳細等は、各掲載主へ直接お問い合わせください。掲載広告のご利用における、事故・トラブルに関して、弊会では一切の責任を負いかねます。

広報委員会

会員限定コンテンツ

※ベルギー日本人会にご入会いただければ、会員限定コンテンツもご覧いただけます。

入会のご案内

当会に入会ご希望の場合は、その旨、メールにてご連絡ください。

jimukyoku@nihonjinkai.be

折り返し入会手続きと入会申込書をお送り致します。理事会での審査・承認のため、お申し込み
いただいてから、1～2週間程要しますので予めご了承ください。

<会員の種類> (ベルギー日本人会規約 第5条)

1. 正会員：ベルギー所在の日系企業及び団体、日本法人の支店、事務所及び子会社、及びそれら
に準ずると認められる企業・団体。
・日本人会の商工委員会に所属し、日本人会の行事に参加頂けます。また、総会での議決権を有し
ます。会報（隔月発行）をお届けします。
2. 賛助会員：本会の目的を支持し、恩恵を受けることを望む個人もしくは法人。
・日本人会の行事に参加出来ますが、総会はオブザーバーとなります。
・会報（隔月）発行のお知らせとパスワードをお届けします。

賛助会員は以下となります。

- 1) 普通会员：正会員に所属するもので正会員により届出られた方。
- 2) 個人会員：ベルギー在住の個人。
- 3) 特別会員：正会員以外の法人もしくは個人
- 4) 名誉会員：在ベルギー日本国大使館、欧州連合日本政府代表部、ブラッセル日本人学校及びそ
の届け出するメンバー、及び理事会により特に名誉会員と認定された方。

ご不明な点がございましたら、事務局までお気軽にお問い合わせください。